



落成式記念葉書 大正4年3月10日 熊木尋常高等小学校



# 中島村 熊木村 組合立熊木小学校誕生



(熊木小学校校印)

## 統合下の初の運動会

統合後、校舎落成まで、中島熊木と一部分散授業をしていたが、初めて統合運動会が催された。

現在、保育所のあるところに熊木役場が見える。火の見やぐらもある。



石川県鹿島郡中島村熊木村学校組合立熊木小学校印と  
統合化初の運動会風景（昭和23年頃か）



## 愛育会研究活動実態発表会（昭和35年1月20日）

昭和30年代は、学校教育、社会教育の関連をどうするということ、各地で問題が起され始めた。それは、社会情勢の変化である。経済の成長とテレビの普及の進展である。今まで文化のセンターであった学校が、その地位を失ない、子どもたちをとりまく社会環境と学校との関係が逆転し、そのため同じ立場にある大人、即ち、教師と親と関係認識の間に大きなへだたりが生まれてきた。この機会をとらえ、親と教師が、一体となって、子どもの成長を助けるPTA本来の姿に立ちかえるべきであるとの主張が出て、熊本愛育会では、昭和34年度より、PTAは、どのような実践活動をすることが、子どもを育てることになるのかをテーマとして、研究活動を進めることになった。「現代っ子をよく知ること」「子どもの成長は親の成長から」「一人で考えるより仲間で考え合う」をあい言葉に活動を始めた。学級PTA、部落PTA、家庭学級、読書サークル等学習環境整備奉仕作業等の実践が積み上げられた。その成果は、次第に、親や子の身体にきざみ込まれていったのである。



（読書グループ、浜田地区）



（向出地区の家庭学級、親子と教師の部落会）



（PTA会員の環境整備作業、学校園づくり）



（子どもを知るために親もやって見る工作）



## 創立百周年と新校舎建設運動（昭和48年～54年）

郡内、町内を含めて最も古い校舎である本校、土地の利と選びぬかれた材料と先人の願いとが絡み合って構築された本校は、姿格好は危険校舎であるが、骨組や内臓は強じんであった。しかし、世代の風潮には勝てなかった。

百周年を機会に、近代的な新校舎建設を望む声が怒とうの如く打ち寄せられた。そして校下民はわいた。欲得、信条、理想が入り乱れて定まる所知らず、唯月日は流れたかのように見えたが、内に燃え続けたのである。敷地、規模、経費どれをとっても難問であった。遂に、53年、行政ペースで事が運ばれ着手に踏み切ったのである。

熊木の里の教育の歴史の中には、何回となくこのような決着が見られたのである。これは、一面、すばらしいことであり、反面、悔いでもある。この評価は21世紀に生きる人たちがすることであって今は、唯、悔いのない建設への努力を続けなければならないだけである。

「新築の槌音高き 春の日に 熊木の里の 田植機の音」（傍親子）



（百周年記念式典）

